

研究課題

小・中学校の継続性・系統性ある教育活動の推進

1 基本方針と研究推進の方向性

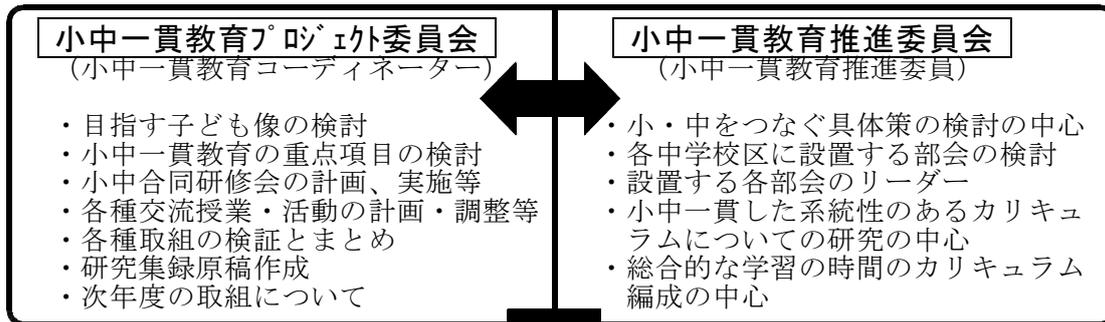
1 ねらい

- (1) 小・中学校の指導法の継続性、学習内容の系統性のある教育活動を推進し、教育活動全般における教育効果を高める。
- (2) 小・中学生の異年齢交流により、児童生徒の社会性や感性を育む。
- (3) 小・中学校の教員が、それぞれ異校種における教科指導や生活指導等を経験し情報交換することにより、発達段階に応じた教育内容や指導方法の工夫ができるようにする。

2 研究内容

- (1) 小中一貫教育コーディネーターを中心に、交流授業、教員1日交流、小中合同研修会を企画実施し、自校の教育に生かす。
 - ①小・中学校それぞれの教育観、教育活動を知る。
 - ②教科内容の系統性を確認する。
 - ③互いの指導法の良さを知る。
- (2) 教員の積極的な交流を図り、生活面における児童生徒の適切な指導について共通理解を図る。
 - ①児童・生徒指導の継続性について情報交換を行う。
 - ②支援情報の有効活用によって、個に応じたきめ細かな支援を円滑に接続する。
- (3) 異年齢の子どもがふれあうことにより、社会性など様々な感性を育む。
 - ①児童・生徒が環境の変化に対応できるよう、柔軟な心づくりに努める。
 - ②小学生が安心して中学校へ進学できるよう、中学校の教育活動に慣れる機会をつくる。
 - ③小・中学生が合同で行う活動を取り入れ、思いやりやあこがれの気持ちを育て、子どもの主体的な活動の活性化を図る。

<推進体制>



児童生徒のよりよい成長のために

<p>教職員の連携強化 9年間の発達段階に応じた継続的指導 (小中の指導に一貫性をもたせる)</p>	<p>☆小・中学校の教職員が連帯感をもち、小中学生を9年間を通して育てようという意識をもつために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の交流 (①1日交流 ②小中合同研修会←各中学校区における交流) ○研究授業等の公開 (参観交流：中学校区問わず実施) ○児童・生徒指導における「生活のきまり」の活用
<p>児童生徒交流の活性化</p>	<p>☆小学生にとっては中学校への不安感をなくしスムーズなつながりができるように、中学生にとっては、自己有用感をもたせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合唱等の発表会 ○6年生への中学校案内 ○出身小学校での合同清掃・美化活動 ○合同あいさつ運動 ○部活動体験 ○中学校体育祭・文化祭等への小学生の招待、中学生による小学校の体育祭等の手伝い ○中学校校舎での中学校教師による小・中学生交流授業 ○子ども未来プロジェクトに関する活動

2 具体的な取組

小中一貫教育プロジェクト委員（以下プロジェクト委員）と小中一貫教育推進委員（以下推進委員）が中心となって実践研究を進めた。

プロジェクト委員は「目指す子ども像」と「重点項目」の検討を行った。さらに各中学校区の教職員、児童生徒それぞれの交流計画の調整も行った。各校のコーディネーターとして実践研究の総括を行った。

進委員は「目指す子ども像具現化のための具体策」と「中学校区ごとの設置部会」の検討、さらに、小中一貫教育の視点で総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しを行った。

本年度は、2つの委員会が連携をとりながら各中学校区、各校の教職員をリードして実践を推進した。検討した内容は、下の表のようになる。

表：下野市の小中一貫教育のまとめ

下野市の進めている小中一貫教育のまとめ				
中学校区	南河内中学校区	南河内第二中学校区	石橋中学校区	国分寺中学校区
目指す子ども像	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら学んで互いに高め合える子 ○心豊かで助け合える子 ○健康でたくましい子 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に考え、学び合いを通して互いに高め合える子ども ○思いやりの心もち、自他を大切にできる子ども ○社会に貢献し、地域に主体的に参画しようとする子ども 	<ul style="list-style-type: none"> 地域とつながり社会に貢献できる児童生徒の育成 ○自ら学び、主体的に自己表現できる子 ○周囲のことを考えて行動できる子 ○心身ともにたくましく挑戦できる子 	<ul style="list-style-type: none"> ○学び合い高め合う子ども ○主体的に人や社会と関わる子ども
目指す子ども像具現化のための具体策	<ul style="list-style-type: none"> ○知：家庭学習の強化週間 読書指導 ノーメディアデー 学習のきまりの統一 ○徳：あいさつ運動 生活のきまりの統一 ○体：歩いて登下校推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話し合い活動」充実のための研修 ○とちぎっ子学習状況調査を活用した学力向上 ○学習のきまり、生活のきまりの指導充実 ○総合的な学習の時間のカリキュラム検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合スキルでつなぐ 11月までに各学校の現状をまとめる ・プレゼンテーションスキル ・調べ学習のスキル ・ICTに関するスキル など 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中交流授業 ○授業を見せ合う（自由参観）と授業研究 ○家庭学習および学習のきまり ○授業の重点化（各教科の見出し） →どの単元を重点とするか ○「学び合い」の共通理解
小中一貫教育の重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ○読書の継続と読書指導（本の選び方等も含める） ○ノーメディアデー（中学校のテスト期間中の家庭学習強化期間） ○俳句づくり（中学生）小学生は俳句や詩を創作するなどの書く活動 ○どの学校でも同様の学習指導（授業のスタイル） ・「めあて」の提示と学習の「ふりかえり」 など ○「学習のきまり」の見直し ○「生活のきまり」の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級活動の話し合い活動を充実させる。 ○国語・算数（数学）でのとちぎっ子学習状況調査結果を活用して、学力向上を図る。 ○生活のきまりを再度見直し、子ども、教員、保護者間で一貫性のある指導を行う。 ○ふるさとへの誇りと愛情の醸成・地域参画力の育成・地域の教育資源を活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「めあて」と「振り返り」の充実 ○書く指導の徹底 ○地域行事等への参加促進 ○目標を設定し、体力向上を図る体育指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着、学力の向上 ・学び合う授業の工夫 ・小中の教科内容を理解した上での学習指導 ・指導内容の重点化 ・一部教科担任制の導入 ・家庭学習も含めた学習習慣の定着 ○人や社会と関わる力の育成 ・コミュニケーション力育成の強化 ・情報収集力、活用力、発進力の育成
中学校区ごとの設置部会	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職部会 ○学力向上部会 <ul style="list-style-type: none"> ・学業指導グループ ・外国語・総合グループ ・特活・道徳グループ ○児童・生徒指導部会 ○特別支援部会 ○体力・健康部会 ○事務部会 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習部会 <ul style="list-style-type: none"> ・調査チーム ・話し合い活動チーム ・授業研究チーム ○児童・生徒指導部会 <ul style="list-style-type: none"> ・生活のきまりチーム ・子ども未来プロジェクト外活性化チーム ○総合的な学習部会 <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム検討チーム ・地域教材化チーム ○事務部会 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習部会 <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導分科会 ・小中交流授業推進分科会 ・道徳推進分科会 ○健康体育食育部会 <ul style="list-style-type: none"> ・健康増進分科会（養護教諭） ・体力増進分科会 ・食育分科会 ○学校生活部会 <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒指導分科会 ・子ども未来プロジェクト分科会 ・特別支援教育相談分科会 ○事務部会 	<ul style="list-style-type: none"> ○推進部会 ○教務部会 ○事務部会 ○養護教諭部会 ○学習指導部会 <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム研究部 ・総合的な学習部 ・学習習慣研究部 ○児童・生徒指導部会 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども未来プロジェクト部 ・児童・生徒指導部

1 中学校区における教職員の連携研修の実施

(1) 小中教員交流研修

【内 容】

- 中学校区ごとに、小学校の教員が中学校で、中学校の教員が小学校で学校生活の体験交流を行う。
- 授業内容の系統性に加え、発達段階を踏まえた生活面での指導の違いや系統的な指導の必要性を確認し、情報交換を行う。
- 授業参観だけでなく、T2やT1で授業を行う。
中学校教員は、専門性を生かしてT1で授業を実践する。

【平成29年度 交流教員】 小学校…13名 中学校…12名 計 25名

	学校名	交流先	交流日
小学校 ↓ 中学校 ↑	1 薬師寺小学校	南河内中学校	7 / 10 (月)
	2 吉田東小学校	〃	7 / 10 (月)
	3 吉田西小学校	〃	7 / 14 (金)
	4 祇園小学校	南河内第二中学校	6 / 27 (火)
	5 緑小学校	〃	6 / 27 (火)
	6 石橋小学校	石橋中学校	9 / 4 (月)
	7 古山小学校	〃	11 / 28 (火)
	8 細谷小学校	〃	7 / 6 (木)
	9 石橋北小学校	〃	6 / 13 (火)
	10 国分寺小学校	国分寺中学校 (2名)	6 / 29 (木)
	11 国分寺西小学校	〃	6 / 29 (木)
	12 国分寺東小学校	〃	6 / 29 (木)
中学校 ↓ 小学校 ↑	13 南河内中学校	薬師寺小学校	7 / 13 (木)
	14 〃	吉田東小学校	7 / 13 (木)
	15 〃	吉田西小学校	9 / 7 (木)
	16 南河内第二中学校	祇園小学校	6 / 27 (火)
	17 〃	緑小学校	6 / 27 (火)
	18 石橋中学校	石橋小学校	9 / 4 (月)
	19 〃	古山小学校	11 / 21 (火)
	20 〃	細谷小学校	7 / 7 (金)
	21 〃	石橋北小学校	6 / 13 (火)
	22 国分寺中学校	国分寺小学校	11 / 6 (月)
	23 〃	国分寺西小学校	11 / 15 (水)
	24 〃	国分寺東小学校	12 / 8 (金)

【感 想】

①授業に関すること

ア 中学校の授業で、小学校の教員が感じたこと

- ・小学校よりも中学校の方が話す速度が速い。
- ・すべての授業で学び合いの雰囲気があり素晴らしい。
- ・授業中の学習規律等、小学校で身に付けさせておくべきことが明確になった。
- ・3分前着席により、時間を守り、前もって動けるような指導が行われている。
- ・「連立方程式の利用」で「速さ」の問題につまずいている生徒がいた。小学生のうちに苦

- 手意識を持たせない工夫が大切だと感じた。
- 小学生のうちに相手の話を最後まで聞く姿勢を身に付けさせるべきであると感じた。
- 中学校で歴史の授業を実施した。ジグソー学習のような形式で授業を実施した。自分が成長したような気がした。
- Pepperの授業では、役割分担や作業時間を設定し、いかに生徒を授業に参加させるのかを工夫していた。
- 特別支援教育において、小学校では1対1対応できていたが、中学校では集団になり、集団での適応が難しい子への対応を先生方が協力して行っていることがわかった。
- 小学校で担当している児童に、自分の感情のコントロールの仕方を、中学校の段階を見据えて指導していくことが大切だと感じた。

イ 小学校の授業で、中学校の教員が感じたこと

- 社会科で協同的学習のジグソー学習という手法を使っていた。中学校でも継続して同様の学習ができるとよいと感じた。
- 児童は授業をよく聞き、熱心に課題に取り組んでいた。自分の考えを周りの児童に大きな声で発表することができており感心した。
- 小学校の先生方のきめ細やかな支援と指導が充実していると感じた。
- クラスに掲示してある発表の仕方は児童にとってとても有効であると感じた。
- 外国語活動での児童の反応がよく、活発に英語でやりとりを行うことができた。
- 小学校での授業はとても丁寧であり、毎時間のねらいを達成できたと思えるような教材研究がなされており、中学校でも見習いたいと感じた。
- 道徳の時間に児童が堂々と友達の前で発表している姿が素晴らしいと感じた。
- 小学校で1～5校時のすべての授業を担当するのはとても大変だと感じた。
- 小学校の担任の先生は教室から離れる暇もなく、児童が登校してから下校するまで忙しいんだと感じた。
- 小学生に算数の授業を実施したが、どの児童もあきらめずに取り組み、とても意欲的であった。この意欲を中学校でも継続させられるような授業づくりを心がけたい。
- 児童に分かりやすくきちんと伝える工夫をしていた。中学校に足りていない部分であると感じた。

②生活に関すること

ア 中学校での生活で、小学校の教員が感じたこと

- 生徒が自主的に2分前着席をしていたことが印象に残った。
- 生徒たちが、クラス、男女を問わず仲がよいという印象を受けた。
- 小学校を卒業した教え子が成長した姿が見られてうれしく感じた。
- 朝の読書や無言清掃・黙想等、中学校での取組を取り入れたことで、小中のつながりが意識されてきていると感じた。
- 小学校ではノーチャイムでありながら時計を見て行動できない児童もいるので、中学校の様子を見て粘り強く指導していかなければならないと感じた。
- 小中間で学習・生活指導の仕方を摺り合わせることで、入学当初における精神的な負担を和らげられるのではないかと感じた。
- 中学校では様々な先生が生徒と関わっているの、先生方の生徒理解が一貫していると感じた。小学校でも児童の情報交換を密に行う必要があると感じた。
- 5、6年生のリーダーシップが素晴らしいと感じた。草刈り活動で下級生に危険があると感じた際に、児童がすぐに声をかけて教えてあげていた。
- 小学校の時と比べて「どうしたのかな」と感じる生徒がいたので、小中の連携をさらに意識して指導に当たらなければならぬと感じた。
- 不登校になってしまった生徒の情報を共有できると、小学校からも何か働きかけができるのではないかと感じた。
- 生徒理解について、中学校の教員と同じところ、異なるところがあると感じた。お互いの情報共有が大切だと感じた。

イ 小学校での生活で、中学校の教員が感じたこと

- 給食の配膳や清掃活動等、児童が自主的にいろいろな活動を行っていて感心した。
- 終始穏やかな雰囲気で行われており、担任との関係がとてもよいと感じた。
- 休み時間や清掃活動等で縦割り班がとてもよく機能していた。

(2) 小中教職員合同研修会

中学校区	実施日	会場
南河内中学校区	8 / 1 (火)	南河内公民館
南河内第二中学校区	8 / 3 (木)	緑小学校
石橋中学校区	8 / 1 (火) ・ 11 / 28 (火)	石橋中学校
国分寺中学校区	8 / 1 (火)	国分寺中学校

* 設置した部会を中心として、小中一貫教育の実践に関する協議・検討を実施した。

2 中学校区における児童生徒の交流事業の実施

(1) 南河内中学校区での交流

① 本年度の主な実践内容

ア 部活動見学

- ・放課後の部活動を小学生に公開。
帰宅してから小学生に自由な見学を実施。
【 7月 7日 (金)】



〈部活動見学
体育館の中を見学する小学生〉

イ 小中合唱交流

- ・南河内中3年生(2クラス)が各小学校へ。
合唱による交流を実施。
・(午前) 3年1、2組→薬師寺小、
(午後) 3年1組→吉田西小、3年2組→吉田東小。
【10月31日(火)】



〈合唱交流・薬師寺小〉



〈合唱交流・吉田西小〉



〈合唱交流・吉田東小〉

ウ 中学校授業参観(小学6年生児童、保護者にも公開)

【11月25日(土)】

エ 新入生保護者説明会(会場:南河内中)

【12月12日(火)】

- ・小学6年生児童の中学校授業体験
～国語・理科・英語の授業を実施。
・生徒会本部役員による中学校説明会を実施。
・小学6年生児童・保護者向けの部活動見学を実施。

オ 中学生によるあいさつ運動 【12月中の登校時】

- ・南河内中野球部員と
薬師寺小児童がハイタッチで朝のあいさつ。

カ 下野市子ども未来プロジェクト活動

- ・地域美化啓発活動

【毎週月曜日】学校周辺のごみ拾い

【1月～2月】南河内公民館、道の駅しもつけにおいて
「ごみのポイ捨て禁止」を呼び掛けるポケ
ケットティッシュを配布。



〈6年生児童の中学校授業体験〉



〈中学生によるあいさつ運動〉

② 成果と課題

《成果》

- ・今年度は、初めての試みとなる部活動見学を実施。多くの小学生が見学を訪れ、中学入学への不安解消の一助となった。
- ・今年度の合唱交流も合唱だけでなく、ゲーム等でふれあい、交流を深めることができた。中学生にとっては、自己有用感が高まり、たいへん意義のある交流となった。

《課題》

- ・初の試みとなった部活動見学や中学校の授業参観の訪問者は、ほとんど薬師寺小の児童・保護者であった。地理的条件の違いから仕方がないことだが、吉田西小、吉田東小の児童・保護者が一人でも多く参加できる手立てが課題である。また、移動時の安全確保も課題である。
- ・児童生徒の交流は、やはり時間の確保が課題である。来年度のためには、今年度中に小中連携して行事の調整を行い、年間行事計画に位置付けることが必要である。

(2) 南河内第二中学校区での交流

① 本年度の主な実践内容

ア あいさつ運動

本年度は、よりよい交流の場となるように、中学生は部活動単位で小学校に出向いた。

5月から11月まで毎月1回、祇園小・緑小の登校時間に中学生が訪問してあいさつ運動を行った。中学生は手作りの名札をつけ、小学生が声をかけやすくしたり、簡単なクイズを用意して、限られた時間で交流を図れるよう工夫した。

〈あいさつ運動〉



〈クイズでおはよう〉



〈協力！掃く・集める人〉 〈袋もすぐいっぱい〉

ウ 二中地区クリーン活動 11月17日(金)

祇園小・第二中学校・緑小をつなぐ遊歩道やその周辺に設置されている公園の落ち葉拾いをした。各小学校に集合し、まずは自己紹介から始め、グループの輪から笑顔があふれていた。中学生の手作り名札のニックネームを見て、小学生は中学生に声をかけ、作業もはかどった。

② 成果と課題

《成果》

- ・あいさつ運動やクリーン活動など、子ども未来プロジェクトでの話し合いを元に、校種の隔たりを越えてより効果的な活動ができた。班の構成を考えたり、取り組みやすい雰囲気大切にしたりすることで、児童・生徒の自己表現力やコミュニケーション能力が高まった。
- ・中学生が小学生の手本になろうとする意識の高揚が図られた。
- ・小中学校の教員間で、協力して指導にあたる意識の高まりが感じられた。

《課題》

- ・新入生学校説明会では、中学校1年生との交流が中心となった。他学年と交流する時間も実施したいところではあるが、時間確保や行事の調整が難しい。

イ 小中交流音楽集会 11月1日(水)

中学校の合唱コンクールで金賞・銀賞になった3年生と2年生の4学級が、2学級ずつ祇園小・緑小に出向き、音楽をとおして交流した。

体育館まで、小学生と中学生が手をつないで入場し、かわいらしい案内人に中学生の緊張も和らいだ。会場では、互いに合唱を披露しあったり、小中学生全員で合唱したり、歌で交流した。

〈小学生の案内で〉



〈小中学生全員合唱〉



〈学校生活紹介〉



〈家庭科授業体験〉

エ 新入生学校説明会 12月8日(金)

中学校1年生が、来年度入学予定の小学生とその保護者に向けて、中学校生活の様子を説明した。まず、1年生全員による合唱で開会し、新入生が不安にならず新しい生活に入れるように自分達の経験を生かして説明した。その後、小学生と合同で、授業を行った。



〈子ども未来プロジェクト〉

(3) 石橋中学校区での交流

① 本年度の主な実践内容

- ア 「入学説明会」では中学1年生が6年生及び保護者に対して歓迎の学年合唱を披露した。また、生徒会役員が学校行事や部活動・生活のきまりについてスライドを使って説明を行った。
- イ 「児童・生徒交流会」では、お互いの学校の情報交換や「クリーン作戦」についての打合せなど活発な意見交換を行うことができた。
- ウ 「あいさつ運動」では、中学生が出身小学校を訪れ、あいさつ運動を実施した。児童とともに、校門や昇降口で、登校してくる児童や地域の方々に元気よくあいさつを行った。
- エ 「クリーン作戦」では、中学生が出身小学校を訪れ、小学生とともに小学校の校舎や地域の公園の清掃を行った。



〈児童生徒交流会・意見交換〉



〈あいさつ運動〉



〈クリーン作戦〉



〈クリーン作戦〉

② 本年度の主な実践内容

《成果》

- ・入学説明会では、中学生が合唱で歓迎し、優しく説明してくれたことで安心感を得ることができた。また、中学生は後輩たちのよき手本となる自覚をもつことができた。
- ・あいさつ運動では、中学生が小学生の手本となるあいさつを見せることで、小学生のあいさつの意識が高まった。
- ・クリーン作戦を通して、小学生と中学生との絆が深まった。また、地域をきれいにする意識も高まった。

《課題》

- ・入学説明会後の授業参観・部活動見学の時間が少なくなってしまったので、それぞれの活動の時間確保が必要である。
- ・小学校と中学校が離れているため頻繁な交流は難しいが、より効果的な交流活動を考え実践していきたい。

(4) 国分寺中学校区での交流

① 本年度の主な実践内容

ア 小学校音楽集会参加

6 / 26 (月) : 国分寺小 (国分寺中 3 年生による合唱発表・合唱交流など)

7 / 3 (月) : 国分寺東小 (国分寺中 3 年生による合唱発表・合唱交流など)

国分寺西小 (国分寺中 3 年生による合唱発表・合唱交流など)

イ 下野市子ども未来プロジェクト活動 (国分寺中)

8 / 31 (木) : ワークショップ、今後の交流についての話し合い (児童・生徒代表者)

ウ 下野市子ども未来プロジェクト活動 (小中交流活動)

10 / 3 (火) : 国分寺小 【共同清掃活動、お楽しみ交流会】 (生徒会役員による交流)

国分寺東小 【共同清掃活動、お楽しみ交流会】 (生徒会役員による交流)

国分寺西小 【共同清掃活動、お楽しみ交流会】 (生徒会役員による交流)

エ 新入生オリエンテーション

12 / 14 (木) : 国分寺中へ各小学校の 6 年生が来校

生徒会本部役員による新入生への中学校説明会

小学 6 年生児童・保護者向けの授業体験や部活動見学・体験など



【小学校における合唱発表・合唱交流】



【子ども未来プロジェクトの共同清掃活動】



【新入生オリエンテーション体験授業】

② 成果と課題

《成果》

- ・子ども未来プロジェクトの活動をはじめ、児童生徒の交流はますますさかんになり大きな成果をあげている。
- ・新入生オリエンテーションにおける合同授業を行うことにより、中学校への理解と期待が高まった。

《課題》

- ・時間の確保や場所、内容の調整を行う必要がある。
- ・児童生徒の移動における安全確保の必要がある。